

キタのまちのニュースレター



北区民センターと大淀コミュニティセンターの主催事業「落語と絵本のアニュアル」について語り合う、国際日本文化研究センター 所長・井上章一さんと、上方落語協会 会長・笑福亭仁智さん

大阪的って何？ 水辺から考える アート・おおさか・大阪暮らし

北区民センター、大淀コミュニティセンターでは日々の会館運営とともに、地域コミュニティが闊達になるようにと願い、地域を学びの場に見立てた様々な試みを企画し開催しています。

それらは、上方落語から着想を得て「絵を描く」イベント、江戸期・幕末の色鮮やかな名所の錦絵「浪花百景」を大判に引き伸ばしたタペストリー展、フラを学ぶ人たちが互いを高めあうための「マナビバ・フラ・カンファレンス」、さらに会館運営の広報紙として、この「キタのまちのニュースレター」などがあります。

このような試みの数々に賛同し、常日頃から協力していただいているのが、大阪大学総合学術博物館の先生方で、これら数多くの試みに参与し「監修」もお願いしています。

先ごろ、その先生方と「大阪的って何？」と題し、一風変わったシンポジウムを「ともに主催」というカタチで企画・開催しました。しかも、その基調講演には日本文化の国立研究機関として著名な、国際日本文化研究センター所長 井上章一さんを（京都から）お招きし、その著書「大阪的（幻冬舎新書）」から、導き出した「大阪的って何？」をシンポジウム・テーマにさせていただきました。会場には約 200 名の一般参加者がおり、ともに「大阪のこと」を考えました。

そこでは、私たちの（前出）企画事業が「研究発表」として取り上げられ、先生方と参加者が一つになり、多くのことを語り合いました。



基調講演：大阪的 — 意匠論 / 国際日本文化研究センター 所長 井上章一さん



研究発表：浪花百景…「幕末の水辺に迷い込む」
大阪大学総合学術博物館 研究支援推進員波瀬山祥子さん 大阪大学 名誉教授 橋爪節也さん

一回きりのシンポジウムでは、その方向性をとりまとめ導き出すことができませんでしたが、井上章一先生と、このニュースレターで毎回「浪花百景歳時記」をプロデュースしていただいている、大阪大学 名誉教授 橋爪節也先生らは、異口同音に次のようなことをおっしゃいました。

「色香を有するごく普通にあった『大阪的』が消去されてゆくのは、たかだかこの半世紀の事象である」と。

これに併存するように、こんな提言もありました。知り合い、語り合い、表現・研究し合う「コミュニティを旅するような研究や出会いの場」が必要ではないのか、と。

このシンポジウムは先ごろ改修整備が整った北区中之島の「大阪大学中之島センター」近傍が会場でした。そんなこともあり、これら提言が、私たち北区民センター、大淀コミュニティセンターの「地域を学びの場に見立てた様々な試みを企画し開催」することへの激励のようにも感じられ、具体的なアドバイスもいただくことができました。

今後の企画にも活かしたいと考えています。（写真は当日のシンポジウム風景）



同：変化する水辺 明治・大正・昭和 / 大阪大学総合学術博物館 副館長 船越幹央さん

グランドピアノを無料で弾ける 体験会を開催いたします！

11月と12月に大淀コミュニティセンターで「大人のピアノ教室体験会」が開催されます。講師には大阪音楽大学出身の方をお招きし、マンツーマンでレッスンを体験できます。もちろん初心者から経験者まで参加いただける内容となっております。しかし、そうは言っても「何も知らなくて大丈夫か」「今からだ遅いんじゃないか」と考える方がいらっしゃると思います。そこで今回は経験者の目線から、初心者の方へ向けてピアノの魅力をお伝えしたいと思います。

まず筆者のピアノ歴についてですが、3歳から10年ほど教室に通っていましたが、きっかけは母が家で弾いているのを見て「自分も弾きたい！」と思ったからです。ただし、練習はサボり気味で、何か大きな成果を残すほどではありませんでした。ですが、レッスンを辞めてからも好きな曲を弾いたりして、今でも大好きです。

そんな筆者が初心者の方にお伝えしたいことは「あまり気張らずとも大丈夫」です。特にピアノは「小さい頃から習っていないと上手くなれない」など敷居が高いイメージを持たれがちですが、それはプロを目指す場合です。むしろ「はじめは子供でも弾ける」と思って良いと思います。もちろん初めはゆっくりと片手ずつかもしれませんが、筆者からするとどんな形でも「一曲を演奏する」という楽しみは何にも代え難い体験でした。なので今でも思い出しては好きな曲を練習したりします。ですが、やはり何事も基本が大事です。経験者だからといってblankがあると分からないことや思い出せないこともあり、「もう一度習い直したいな」と思うことがあります。そんな時に講師に頼れるというのは魅力的ではないでしょうか。

涼しくなってお出かけも気持ちいい季節。少し足を伸ばして芸術の秋を初めてみてはいかがでしょうか。

大人のピアノ教室 無料体験会

11月29日(水)・12月6日(水) 10時～

■持ち物：筆記用具、弾きたい曲の本・楽譜などがあれば
ご持参ください

■ピアノ講師：岩根 美智代

■申込・問い合わせ：大淀コミュニティセンター

06-6372-0213

※応募者多数の場合、締切ります。

まちなか子育て

建築家・ツキイチ屋台女将 岸上 純子

私の息子は11歳、小学5年生です。5歳の時に今の場所に引っ越してきたのですが、その息子が先日、あるインタビューで「中津ってどんなところ？」と聞かれ、「なんか変！いろんな大人がいっぱいおる」って答え、私もインタビュアーも爆笑。どうやらまんまと中津の子になっていると感じた出来事でした。

うちの斜め向かいには、今どき珍しい「駄菓子屋さん」があります。その駄菓子屋さんで、息子は簡単な「足し算」を学びました。「はじめてのおつかい」もそこでした。そこでは自身のおばあちゃんより年上のおばあちゃんに、礼儀も教わりました。

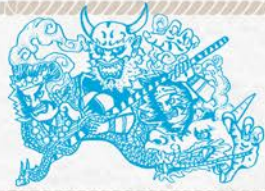
親(私たちのことです)が、家にいなくて低学年の時には上がらせてもらって留守番させてもらって宿題まで見てもらうこともありました。近所のコンビニには友達のおばあちゃんが働いています。公園で遊んでいて買い食いしたらすぐに私に伝わります。

「手はちゃんと洗って食べや〜」って言っといたよ〜、と教えてくれます。近所の飲み屋にはゲームの話で盛り上げられる金髪の店長がいます。息子とは20歳以上離れています。彼女は息子にとって「友達」だそうです。他の飲み屋では、酔っぱらった友達のお母さんによく会います。公園で野球をしていたら、いつの間にか一緒に遊んでくれるロングヘアに髭の大人がいます。

その他にも中津には昼夜を分かつたず、いろんな大人が行き来しています。私は子供のころ大阪の郊外に住んでいたため、昼間のまちはお年寄りか女性しかいませんでした。そして男性のほとんどはスーツを着て、朝まちから出勤していく人たちがばかりでしたし、接する大人は両親と同じような属性の大人ばかりでした。その環境と、まちなか「中津」は全く違います。

そこに住んでいる人もいれば働きに来ている人もいる、サラリーマンもいれば、髪型も服装も自由な仕事をしている大人もたくさんいる。子どもはいろんな大人と接して、もみくちゃにされ、成長していく。それが将来、吉と出るか凶と出るかは今の私にはわかりません。

でも、私は今の子育て環境がとてもいいと思っています。いろんな大人がいる！だから世の中は面白い！そう思ってくれれば万々歳なのです。



キタ歩き日本旅



青森県
の巻

「大阪駅前ビル」には、47都道府県のうち約半数にもなる日本全国の「道府県事務所」がオフィスを構えています。少し大げさに表現すると『日本が大阪駅前ビルに勢ぞろい!』の風情です。SNS万能の時代ですが、全国各地の旅や物産の様子が「人肌感覚」で知ることができます。この連載は、旅する感覚で北区の大阪駅前ビルを訪ね教えていただいた情報です。大阪駅前ビルの歴史も魅力的!「わが町の旅」としていかがでしょうか。



「弘前市りんご公園」。りんごの花は5月に咲き始め「弘前りんご花まつり」も開催される。(出典：青森観光情報サイト・フォトギャラリー)

味覚の秋!その代表格のひとつ「りんご」について知りたいと、青森・秋田・岩手の「北東北三県大阪合同事務所」の青森県大阪情報センターを訪ね、同センター・荒井さんにお聞きしました。

青森県は国産りんごの生産量の6割以上を生産する、日本一のりんご生産県です。中でも弘前市は県内トップの生産量を誇り、「令和3年市町村別農業産出額」の果実部門でも全国第1位という日本一のりんご産地なんです。

あらゆる果実の中で「日本一」とは知りませんでした。日本一といえば、江戸期・物資物流の日本一の集積地は大坂。なかでも「全国諸藩の蔵屋敷」があった中之島周辺は、モノと情報の総合センターのような「場」で、弘前藩(江戸期の全時代、

藩主が津軽氏であったことから津軽藩ともいわれる)の「大坂蔵屋敷」もあったはずです。

私たちが現在食べている西洋りんごは、明治4(1871)年に日本に導入され、青森県へは明治8年の春に苗木が届きました。それが青森りんごの始まりです。江戸期に「りんご」はなかったのが、少し時代がさかのぼりますが、とても興味深いお話です。どのあたりにあったのでしょうか?

(調べてみると)その蔵屋敷があったのは、日本三大祭りの一つ「天神祭り」の神事が執り行われる「堂島川」鉾流橋の“たもと”で、中之島のすぐ北側、現在の天満警察署がその位置です。堂島川の「浜付き」だったとも記録されています。

それは興味深いですね。堂島と

いえば、ドーゾマ地下センターには青森県と岩手県のアンテナショップ「青森・岩手ええもんショップ」があり、青森の名産・逸品が並んでいます。もちろん「新鮮なりんご」は人気ですし、お菓子やジュース等の加工品もたくさん販売しています。

そうですか「堂島のドーゾマ地下センター」ですか!・・・日本一のりんごの話から大阪人も忘れていた歴史・文化の風雅。美味かぐわしい「りんご」の風雅。昔と今、場所と場所が「ひとつの物語」になった、いいお話をいただきました。

大阪の歴史文化の「ものがたり」と、ドーゾマ地下センターの「青森・岩手ええもんショップ」が一つながりになりました。ぜひお立ち寄りください。

浪花百景歳時記

大阪大学総合学術博物館
研究支援推進員

波瀬山祥子

あんなところに猿がジャンプしてて
あそこが北瓢亭ですがな。

第五十八景「北瓢亭」 国員画

「浪花百景」には西照庵や浮瀬などの料亭が登場しますが、キタを代表するのが北瓢亭。凝った店の造りに看板の弾き猿、今ならインスタ映えしますやらの。

道行ナビゲーター 大阪大学名誉教授 橋爪節也



北瓢亭は、大阪キタの歓楽街として賑わう北新地にあった高級料亭です。かつて堂島と曾根崎の間には、堂島川から分岐した蜷川（曾根崎川）が流れていました。大阪駅前第一ビルの南西角の桜橋交差点は、いまは失われた蜷川に架かっていた橋の名にちなみます。川には他にも難波小橋・蜷橋・緑橋・梅田橋などの橋が架かっていました。近松門左衛門『心中天の網島』の「名残の橋づくし」でご存じの方も多いでしょう。

堂島新地と曾根崎新地は、豪商の河村瑞賢（一六一八～一六九九）による治水工事で拓かれます。「浪花百景」第五景「堂しま米市」にも描かれるように、堂島には米市場が置かれ、そこで働く商人らの遊興の場として二つ

の新地は栄えました。さらに享保十五年（一七三〇）、堂島が幕府公認の市場となると、曾根崎新地が発展し、俗に「北の新地」と呼ばれるようになりました。「撰津名所図会大成」（安政二年（一八五五）頃成立）には、「泊茶屋軒をつらね紅顔雪肌のもとがらゆききして楼上には琴曲絲絃の音うるわしく四時ともに賑わし所謂北方の繁花なり」とあり、本図はその享楽ぶりを伝えています。

広大な庭に生える木は紅葉し、秋晴れの邸内を捉えています。廊下や左正面の楼閣には瓢箪の装飾が施され、庭に張り出す右手前の建物には、提灯に「国員画」の文字が隠されて鑑賞者を楽しませます。

びっくりするのが棒にしがみつくと巨大な猿です。同じ北瓢亭を描いた松川半山（一八一八～一八八二）の「浪華北新地在瓢亭之図」（大阪市立中央図書館所蔵）で確認すると、竹軸の下の竹弓をはじいて人形が上の方にはね上がる玩具の「猿はじき」を大きくし、お店の目印としていたようです。国員の描く人物は極端に小さかったり大きかったりしますが、この絵の猿もぬいぐるみを着てキングコングに扮した店員にも見えてしまいます。大きな看板の猿の玩具は、どんな風に飛び上がったのでしょうか。

右手前の建物は「絵馬の茶屋」、左手前は「傘亭」という客間、石造の蛙が置かれる所は「踊のはし」、楼閣は「名々戎」という名前で、頭にかんざしを指した遊女らしき女性がお得意様を接待しています。その下には「白糸瀧」があり、また、ここには描かれていませんが、瓢箪から流れ落ちる手水場や百度石、さらには鳥居などもあったようです。

大人の社交場として繁栄をみせた北新地ですが、明治四十二年（一九〇九）、北の大火によって北瓢亭は焼け、蜷川は瓦礫の捨て場となって、上流部が埋められ、大正十三年（一九二四）に下流部も埋め立てられて姿を消しました。

現在の北新地は、高級ラウンジやバーが立ち並ぶ夜の街ですが、日中に江戸時代の痕跡を探して散歩を楽しむのもおすすめです。

■編集・発行：北区民センター・大淀コミュニティセンター・都市コミュニティ研究室

■指定管理者：一般財団法人大阪市コミュニティ協会

■発行月：7月・10月・1月・4月の各月下旬発行

北区民センター 〒530-8401 大阪市北区扇町2-1-27
✉ kitakumin-center@abelia.ocn.ne.jp

大淀コミュニティセンター 〒531-0074 大阪市北区本庄東3-8-2
✉ oyodo-comini@abelia.ocn.ne.jp

編集後記

高度成長期に普及した新しい言葉「コミュニティ」は、共同体や地域社会を表す「広がりのある言葉」です。ここ20年、SNS社会が普及したことで仕事の機会・趣味嗜好の出会いなども画期的な広がりを遂げ、併せてコミュニティの意味合いが進化しています。北区では超高層マンションが急増したことでコミュニティ感の進化が顕著です。今号1ページでは、そのような社会背景をベースにした、私たちの取り組みをご紹介します。